

作成日 2007年3月31日

改定日 2020年5月13日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	しっくいコテ押さえ・中塗り材		
主な用途	既調合しっくい中塗り材		
会社名	株式会社 豊運		
住所	大阪市東住吉区今川 3 - 12 - 4		
担当部門	技術本部		
電話番号	0494-62-5545		
FAX番号	0494-62-5345		
緊急時の連絡先	(東日本営業部) 福島県石川郡平田村大字西山字水尾 111 - 3	電話番号	0247 - 54 - 3232
	(西日本営業部) 大阪市東住吉区今川 3 - 12 - 4	電話番号	06 - 6708 - 8131
製品番号	S - 1141		

2. 危険有害性の要約

GHS分類		
健康に対する有害性	急性毒性 (経口) 急性毒性 (経皮) 急性毒性 (吸入: ガス) 急性毒性 (吸入: 蒸気) 急性毒性 (吸入: 粉塵) 急性毒性 (吸入: ミスト) 皮膚腐食性・刺激性 眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性 呼吸器感作性 皮膚感作性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露) 特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露) 吸引性呼吸器有害性	区分外 分類できない 分類対象外 分類対象外 分類できない 分類できない 区分 2 区分 1 分類できない 分類できない 分類できない 分類できない 区分 1(呼吸器) 分類できない 分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 (急性) 水生環境有害性 (長期間)	分類できない 分類できない

GHSラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語	危険
危険有害性情報	皮膚刺激 重篤な眼の損傷 吸引した場合、臓器 (呼吸器) の障害

注意書き	
【安全対策】	粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 取り扱い後は手・顔・口をよく洗うこと。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面/防じんマスクを着用すること。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
【応急処置】	特別な処置が必要である。(項目4. 応急措置を参照)
【保管】	湿気の少ない場所で施錠して保管すること。
【廃棄】	内容物/容器を国・都道府県・市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分： 混合物

成分名	CAS No.	官報公示整理番号（化審法・安衛法）
水酸化カルシウム	1305 - 62 - 0	1 - 181
炭酸カルシウム	471 - 34 - 1	1 - 122
その他	—	—

- ・特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（化学物質排出把握管理促進法）の第1種指定化学物質及び第2種指定化学物質には該当しない。
- ・労働安全衛生法： 通知・表示対象物： 水酸化カルシウム

※厚生労働省指針値14物質 これらの物質は含まない。

アセトアルデヒド	フタル酸ジ-n-ブチル	パラジクロロベンゼン
エチルベンゼン	ホルムアルデヒド	n-ノナール
スチレン	テトラデカン	トルエン
キシレン	クロルピリホス	フェノバルブ
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	ダイアジノン	

※アスベストに類する物質は含まない。

ホルムアルデヒド放散等級自主制度による登録番号

日本建築仕上材工業会登録	
登録番号	0704030
放散等級区分	F☆☆☆☆
問合せ先	http://www.nsk-web.org/

4. 応急措置

眼に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合： 多量の水と石鹸で洗うこと。

ばく露又はばく露の懸念がある場合： 医師に連絡すること。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

皮膚刺激が生じた場合： 医師の診断／手当てを受けること。

5. 火災時の措置

消火剤： 不燃物であり、製品に特定の消火剤はない。

火災時の特有の危険有害性： 注水により、高いアルカリ性の溶液が流出するおそれがある。

消火方法： 不燃物であるが、周辺の火災時は一般火災の消火方法による。注水時は飛散防止に配慮する。

消火を行う者の保護： 適切な保護具（耐熱性衣類など）を着用する。

6. 漏出時の措置

漏出時にはできるだけ粉体の状態で回収する。

人体に対する注意事項 皮膚刺激。重篤な眼の損傷。

保護具及び緊急時措置： 回収作業には保護手袋・保護衣・保護長靴・保護眼鏡・保護面・防じんマスクなど適切な保護具を着用する。

環境に対する注意事項： 粉じんが飛散しないようにする。環境中及び下水道に流出しないようにする。濃厚な洗浄水は中和・希釈処理等により、河川等に直接流出しないように対策をとる。

封じ込め及び浄化の方法

及び機材： 漏出・飛散した場合には掃除機・スコップ・箒等により、できるだけ粉体の状態で回収し、廃棄まで容器で保管する。やむをえず床面等に残ったものは、水で洗浄する。洗浄水は回収し、中和処理等により適切に処理する。回収物や回収した洗浄水は、「項目13. 廃棄上の注意」に従い、廃棄又は排水する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

取扱者のばく露防止： 眼・皮膚等への接触を避けるために、適切な保護具(保護手袋・保護衣・保護長靴・保護眼鏡・保護面・防じんマスク)を着用する。

局所排気・全体排気： 屋内で取り扱う場合は、換気に注意する。

安全取扱注意事項 取り扱う際は、飲食又は喫煙をしない。
破袋等に繋がる粗暴な取り扱いをしない。
みだりに粉じんが発生しないように取り扱う。
取り扱い後は手・顔・口を水洗いする。

接触回避 アルカリ性なので、酸性の製品との接触を避ける。

保管

安全な保管条件

混触禁止物質： 酸性の製品、水と接触のおそれがない場所に貯蔵する。

適切な保管条件及び避けるべき保管条件： 施錠その他の方法により、部外者が触れない措置を講ずる。
乾燥した場所に保管する。

推奨する安全な容器包装材料： 防湿性のある容器・包装。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度： 設定されていない。

許容濃度： 日本産業衛生学会：(水酸化カルシウム) 設定されていない。
ACGIH(2014)：(水酸化カルシウム) $5\text{mg}/\text{m}^3$ (TLV-TWA)

設備対策： この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器、安全シャワーを設定する。
粉じん、蒸気、ガスなどが発生する場合、換気装置を設置する。

保護具

呼吸器用保護具： 防じんマスク
手の保護具： 不浸透性保護手袋
眼の保護具： 保護眼鏡(普通眼鏡型・側板付き普通眼鏡型・ゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具： 保護長靴・保護衣・保護面

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状： 粉末
色： 白色
臭い： 無臭
pH： 12.4(水酸化カルシウム)
比重： 2.2(水酸化カルシウム)
融点： 水酸化カルシウム：580℃(分解し、酸化カルシウムを生成)(*6)
溶媒に対する溶解性： 水に難溶
自然発火温度： 607℃(水酸化カルシウム)
分解温度 580℃(水酸化カルシウム)

10. 安定性及び反応性

反応性： 大気中で炭酸ガスを吸収し、炭酸カルシウムとなる。
加熱すると分解し、酸化カルシウムを生じる。

化学的安定性： 通常の手扱いにおいては安定であり、危険性はない。

危険有害反応可能性： 水の存在下で、多くの金属を侵し、水素を生成する。

避けるべき条件： 空気との接触、加熱

混触危険物質： 強酸化剤、酸類

危険有害な分解生成物： 酸化カルシウム

11. 有害性情報

化学物質の有害性情報

水酸化カルシウム

急性毒性 (経口)

ラットのLD50値として、7,340mg/kgとの報告 (*1、*2) に基づき、区分外とした。

(経皮) (吸入：粉塵・ミスト) :
(吸入：ガス・蒸気) :データ不足のため、分類できない。
固体のため、分類対象外。

皮膚腐食性/刺激性 :

本物質は強塩基性物質 (pH 10.9-11.9 (*3)) であり、身体表面に中等度の腐食又は刺激作用を持つとの記載がある (*1)。また、本物質はヒトの皮膚に対して中等度の刺激性を示すとの記載 (*4) や、軽度の刺激性を示す (*3) との記載がある。以上の情報から、本物質は強塩基性物質であるが、皮膚への影響は「中等度又は軽度」との記載があることから区分2とした。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 :

本物質は強塩基性物質 (pH 10.9-11.9 (*3)) であり、身体表面に中等度の腐食又は刺激作用を持つとの記載がある (*4)。また、本物質は眼に対して腐食性を示す (*4) との報告や、非可逆的な傷害を与える (*3) との記載がある。以上の結果から、区分1とした。

呼吸器感作性 :

データ不足のため、分類できない。

皮膚感作性 :

データ不足のため、分類できない。

生殖細胞変異原性 :

データ不足のため、分類できない。

発がん性 :

データ不足のため、分類できない。

生殖毒性 :

データ不足のため、分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露) :

本物質のデータは限られているが、ヒトに気道刺激性、粘膜腐食性があり、咳、粘膜の火傷、肺水腫、嘔吐、胃痙攣を引き起こすとの報告がある (*1、*3、*2)。実験動物のデータはない。以上より、ヒトの気道を刺激し肺水腫を引き起こすとの記載があることから、区分1 (呼吸器) とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) :

本物質は慢性的な経口摂取により、口腔内及び消化管への刺激による炎症性、又は潰瘍性変化を生じることがある (*2) との記述、並びにラットに3ヶ月間飲水投与した試験において、肝臓、腎臓、胃に萎縮性変化、小腸に炎症がみられた (*1) との記述があるが、投与量を含め詳細が不明で分類に利用できない。すなわち、データ不足のため分類できない。なお、本物質は米国FDAでGRAS (Generally Recognized As Safe) 物質に認定されており、添加物としての食品への通常使用においては安全性が確立している (*5)。また、旧分類はList 2 の情報源を基に区分2 (肺) と分類されたが、今回のList 2 の情報源 (HSDB、IUCLID) からは「呼吸器系」を標的臓器とする影響は急性ばく露影響 (ヒトで吸入により上気道の不快感、咳、胸痛、粘膜の化学性火傷、肺水腫を生じることがある (*2)) としては確認できたが、反復ばく露影響として分類する根拠は乏しいと判断した。

吸引性呼吸器有害性 :

データ不足のため、分類できない。

水生環境有害性(急性) :

データ不足のため、分類できない。

水生環境有害性(長期間) :

データ不足のため、分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性：	データなし。
残留性・分解性：	データなし。
生態蓄積性：	データなし。
土壤中の移動性：	データなし。
オゾン層への有害性：	データなし。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：	固化後、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき廃棄する。 洗浄水等の廃水は、水質汚濁防止法等の関連諸法令に適合するように十分留意しなければならない。 処理等を外部の業者に委託する場合は、都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して委託し、関係法令を遵守して適正に処理する。
汚染容器及び包装：	内容物を完全に除去した後に産業廃棄物として処分する。 都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

輸送に関する規制及び分類に関する情報	
陸上：	消防法・労働安全衛生法・毒物及び劇物取締法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められるところに従うこと。
海上：	船舶安全法に定められるところに従うこと。
航空：	航空法に定められるところに従うこと。
国連番号：	3262(腐食性物質)
輸送の特定の安全対策	
及び条件：	粉じんのたたない方法で輸送する。 破袋、損傷、容器・包装からの漏出、転倒、落下などの荷崩れ防止を確実に行う。 湿気、水濡れに注意する。

15. 適用法令

・ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律	
・ 労働安全衛生法（粉塵障害防止規則）	
・ 労働安全衛生法 [表示対象物質・通知対象物質]：(水酸化カルシウム)	
・ じん肺法	
・ 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR制度)：	第一種・第二種指定化学物質に該当しない。
・ 毒物及び劇物取締法：	該当しない。
・ 消防法	該当しない。
・ 船舶安全法	腐食性物質(水酸化カルシウム)
・ 航空法	腐食性物質(水酸化カルシウム)

16. その他の情報

参考文献：	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構)		
*1	ACGIH 7th (2001)	*4	IUCLID (2000)
*2	HSDB (Access on September 2014)	*5	EPA RED (2005)
*3	EPA Pesticide (2005)	*6	化学便覧 改訂5版

本データシートは JIS Z 7253: [GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示および安全データシート(SDS)] に準じて作成しており、製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、現時点では当社の有する情報を取扱事業者にご提供するものです。記載内容は、現時点で入手できた資料・情報・データなどに基づいて作成したものであり、新しい知見によって改訂されることがあります。本データシートは必ずしも製品の安全性を保証するものではなく、当社が知見を有さない危険性、有害性を持つ可能性があります。取扱事業者は本データシートを参考として個々の取扱い、用途・用法などの実態に応じた安全対策を実施のうえ、お取扱ください。

